

令和2年度 高知県スポーツ推進審議会 会議録

日時：令和3年3月19日（金）10：00～11：20

場所：高知県立人権啓発センター 6階ホール

出席：委員10人中6名が出席

田村副会長、青木委員、猪野委員、島崎委員、田井委員、竹島委員

議事：

- (1) 第2期高知県スポーツ推進計画バージョン4（案）について

1 開会

(事務局)

定刻になりましたので、ただいまから「令和2年度高知県スポーツ推進審議会」を開会いたします。私は、本日の司会を務めさせていただきますスポーツ課総務担当チーフの黒石と申します。よろしくお願いいたします。

本日は、委員総数10名のうち、6名の委員にご出席をいただいておりますので、スポーツ推進審議会条例第7条第2項（委員の過半数の出席で会議の成立）により、本日の会議は成立しておりますことをご報告いたします。それでは、会議に先立ち、文化生活スポーツ部の岡村部長からご挨拶を申し上げます。

2 高知県文化生活スポーツ部長 挨拶

高知県文化生活スポーツ部長の岡村 昭一でございます。令和2年度高知県スポーツ推進審議会の開会に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。委員の皆さまにおかれましては、年度末の大変お忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございました。また、皆さまにおかれましては、高知県スポーツ振興県民会議の委員といたしましても貴重なご意見を賜っておりますことに重ねてお礼を申し上げます。

さて、本日のこの審議会におきましては、先月開催をさせていただきました令和2年度第3回高知県スポーツ振興県民会議などでもご議論をいただいております「第2期高知県スポーツ推進計画バージョン4」につきまして、ご審議をいただくこととしています。このバージョン4への改定に当たりましては、これまでの県民会議などのご議論を反映させていただきまして児童生徒の減少といった課題に対応すべく地域における子どものスポーツ環境づくりの取り組みの強化や新型コロナウイルス感染症の影響によります社会構造の変化に対応いたしまして、リモートによるスポーツ参加の拡大や競技力の向上といったいわゆるウィズコロナ、アフターコロナの時代における新しいスポーツ振興の取り組み、さらには、現在本県が取り組みを進めております関西圏との経済連携の強化、こういったこととも連携をいたしまして本県の特徴を生かしたスポ

一ツツリズムの活性化の取り組み、こういった取り組みを加えることによりまして、計画の拡充を図ることとしています。どうか本日委員の皆さまにおかれましては、バージョン4への改定、そして、その着実な実行に向けまして忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げ開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

それでは、会議に移りたいと思いますが、本日は宮田会長が欠席されておりますので、審議会の規定により田村副会長に議長をお願いしたいと存じます。田村副会長、よろしくお願いいたします。

3 議事

(田村副会長)

副会長を務めさせていただいております、県社協の田村でございます。宮田会長がご不在とのことで、私の方で議事を進めさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは会議に入ります前に、本日の会議録を、審議会規則により議長が幹事の中から作成者を指名することになっておりますので、黒石幹事を指名させていただきます。よろしくお願いいたします。

ここで、県から当審議会に諮問の申し出がありましたので、お受けすることとします。

4 諮問

(岡村文化生活スポーツ部長)

諮問書を読み上げ、田村副会長と諮問書を手交

(田村副会長)

お手元に諮問書の写しが配られたと思いますが、それでは、諮問に基づき審議を始めます。

本日の議題は「第2期高知県スポーツ推進計画バージョン4(案)」についてです。まず、「第2期高知県スポーツ推進計画バージョン4(案)」について事務局から説明をお願いします。

5 第2期高知県スポーツ推進計画バージョン4(案)の説明

(三谷スポーツ課長)

失礼します。スポーツ課長の三谷と申します。本日はどうぞよろしくお願いいたします。私の方から説明させていただきます。お配りしております資料1をご覧ください。

この第2期高知県スポーツ推進計画バージョン4の案は、部長の挨拶にもありましたように、高知県スポーツ振興県民会議と専門部会の委員の皆さまにご議論いただきまして、取りまとめてまいりました。県民会議の方では、特にバージョンアップに向けての強化の方向性をまず定めま

して、そこから強化ポイントを絞っていったという流れを経て、先月の8日の第3回の県民会議によって最終的なご意見をいただいたものを反映したもので、この計画案をとりまとめています。この計画については、バージョンアップですので、全てを大きく変えたということではありません。変更点につきましては、赤字で示しているものと、ポンチ絵などにおいては、新たな取り組みは「新」というマークを、また、拡充する取り組みなどには「拡」とマークをつけて、新たに追加したものがわかるような示し方をさせていただいております。特に変更になった点について、この後ご説明させていただきたいと思っております。

まず、資料の2ページをお開きください。計画の概要でございます。この概要の赤字の部分ですが、新型コロナウイルス感染症の影響で様々なスポーツ活動が制限され、これからウィズコロナ、アフターコロナに向けて新たな対応が必要になってまいりました。そういった新しい時代に即したさらなるスポーツ振興を図るということについて、また、それに加えてこの計画で掲げております地域における子どものスポーツ環境づくり。もう一つは、本県の特徴ある自然環境を生かしたスポーツツーリズムの活性化。そこについて、重点的に強化して取り組むということを示しております、それを踏まえてバージョン4へとバージョンアップしたことを記載しております。

続いて、3ページからの第2章の「本県スポーツの現状と課題」につきましては、一部時点修正などをしておりますけれども、基本的にはバージョン3と変わっておりませんので説明は省略させていただきます。

続いて、13ページからの第3章「計画の基本方針」でございます。14ページには基本方針、15ページには基本理念、さらに次の16ページ17ページには基本目標を記載しています。計画の根幹となる部分ですけれども、ここについては変更ございません。

19ページからの第4章「具体的な施策、事業実施計画」に具体的な取り組みを記載しております。まず始めに、39ページからの「高知県スポーツ振興の強化ポイント」、ポンチ絵集になっていますが、そちらでまずご説明させていただきます。

40ページをお開きください。先ほど説明をしましたように、新たな取り組み、拡充する取り組みは「新」や「拡」の印をつけていますが、ご存じのとおり計画につきましては、大きな柱が3つございまして、これに横断的に関わる方向性をつけておりますが、拡充の強化のポイントとしましては、大きく3点ございます。柱の1と2の両方に関わる地域における子どものスポーツ環境づくり。裾野の拡大でありますとか子どもたちが継続して取り組みことのできる環境づくりに力を入れていくということでスポーツ参加の拡大と競技力の向上の2つに係るようになっております。同様に、柱の1と2に係るリモートで行うスポーツ教室や研修などの環境整備。これにつきましても、新たな取り組みとして両方に示しています。柱の3つ目、本県の特徴を生かしたスポーツツーリズムの活性化ということで、後程説明させていただきますが、アマチュアスポーツ合宿誘致の強化でありますとか、本県の特徴ある自然環境を生かしたスポーツツーリズムのさらなる活性化というところを重点強化してまいりたいということで、全体像の中に示しています。

41ページからの具体的な取り組みについて、新規または拡充のポイントについて説明させていただきます。

まず、41ページ。スポーツ機会の拡充に向けた地域スポーツの拠点づくりにつきましては、主

に地域スポーツハブの取り組みをここでは示しています。下段にある取り組みの展開の右側の地図の下に「令和3年度」との記載がありまして、現在も8地域で展開をさせていただいておりますが、新たに佐川町、須崎市、四万十市で展開をさせていただく予定になっています。現在、調整中ですが、合計11の地域で来年度展開する予定としております。その各地域での取り組み内容は右側に示しておりますけれども、特に、子どもたちのニーズに応じたスポーツ機会の提供。3番の障害者や高齢者のスポーツ機会の充実。5番の広域的な取り組みの充実、一市町村だけではなく広域的に連携して広域に利するスポーツ機会の提供を特に重点的に取り組みを進めていければと思っています。

次の42ページをお開きください。「スポーツを知る、始める機会の拡充」ということで、知る機会の拡充のところの「知る」と記載しているところですが、現在、スポーツ情報の発信ウェブサイト「こうちスポーツNAVI」を運用しておりますけれども、スポーツNAVIの中で市町村で行われる大会なども含めて、大会やイベントへの申し込みができる機能を追加するようにして、より使いやすい形を考えております。右側の始める機会の拡充のところですが、真ん中の「拡」の部分は地域スポーツハブの取り組みなので省略をさせていただきますが、その下、企業における健康経営の推進は、積極的にスポーツ実践に取り組む企業の紹介というところにも力を入れていきたいと思っています。

43ページ「地域における子どものスポーツ環境づくり」は重点強化のポイントの一つ目ですが、3番の今後の取り組みの方向性に示していますとおり、黒の四角で印しているスポーツの裾野の拡大に向けた取り組み。それと、二つ目の子どものスポーツ環境の充実に向けた取り組みへの支援。この中には地域における子どもの空白を埋める新たなスポーツサークルの立ち上げや、運動部活動の充実ということで、県の教育委員会の方が取り組む内容ではございますけれども、合同部活動でありますとか、学校の部活動を一部地域で受けていただくという取り組みなどもこの中に含まれます。併せて障害児のスポーツ機会の拡充ということで、障害のある子どもたちのスポーツ機会がまだまだ十分ではないということで、スポーツ環境づくりにしっかりと取り組んでいきたいということで記載しております。

次の44ページをお開きください。「障害者スポーツの充実に向けた取り組み」ということで、中心部分に、障害者スポーツセンターのコーディネート機能の強化ということを掲げております。大きく4つの部分に分けて取り組みを進めていくようにしていますが、障害者スポーツセンターの指定管理者であります、県社協さんと連携をいたしましてスポーツセンターが核となって地域の障害者スポーツの推進にも中心的に関わっていただけるようにコーディネーターを配置して展開をしていくということでお示しをしております。

次に一つ飛ばしまして46ページをお開きください。新たな取り組み「新」と記載しておりますが、リモートでスポーツ教室や研修等ができる環境整備ということで、県立のスポーツ施設や、地域スポーツハブを展開させていただいている総合型地域スポーツクラブなどの拠点の施設、その他サテライトの施設として、地域で日ごろ活用されている施設などにリモートで活動ができる機器類を配置することとしています。この予算につきましては、今年度の補正予算でお認めいただきまして、現在、整備はほぼ完了しており、一部、既にリモートを活用した試験的な教室の運営などが行われています。また、地域スポーツハブ間で情報交換会なども実施をさせていただいてい

ような状況です。リモートの活用につきましては、活用を進めながら様々な課題もでてきておりますので、関係者のご意見をいただきながら効果的に進めていきたいと思っております。

次の47ページですけれども、「さらなる競技力向上に向けた強化」でございます。残念ながら国民体育大会が開催されなかったことなど、大会がかなり中止になったということもありまして、各競技団体における強化は、非常に制限された状況ではありましたが、真ん中の「拡」の部分に記載してありますとおり、全高知チームは現在14競技でございますけれども、新たにバレーボールを追加しまして15競技に拡充して展開するというようにしています。また、障害者の競技力向上支援ということで競技性の高い取り組みへいわゆる強化費を補助するという形をとることとしています。一番下にある競技団体における組織的な活動の充実にもしっかりと支援をしております。

続いて、50ページをお開きください。「高知県スポーツ科学センター（SSC）によるスポーツ医学サポートの強化」でございます。ここのポンチ絵の中には「新」や「拡」の記載はございませんけれども、このSSCの運用の中で、競技団体の特性やニーズに応じた効果的なサポートを実施していかなければならないということで、競技ごとへの対応を柔軟に行っていくのですとか、先ほど出ましたリモートの活用。SSCもリモート環境の整備を行っておりますので、例えば、リモートによるトレーニング指導であったり、指導者の研修であったりといったものもしっかり進めていくようにしております。

続きまして、少し飛ばして53ページをお開きください。「本県の特徴を生かしたスポーツツーリズムの活性化」です。これも重点強化ポイントの一つですけれども、下の「今後の取り組み内容」に記載してある左側、一つは「戦略的なアマチュアスポーツ合宿等の誘致強化」ということで、プロスポーツのキャンプ誘致、プロゴルフの誘致などは当然継続して取り組んでまいりますけれども、今後、アマチュアスポーツ合宿を強化するというので、括弧の1で示しています「ターゲットを絞った誘致」ということで、高知県の強味を生かした合宿誘致や強豪校の誘致、また交流を目的とした合宿誘致とか大会の参加促進ということに取り組んでまいりますとともに、括弧の2番、関西圏を中心とした誘致にも力を入れていきたいと思っております。右側の「本県の特徴ある自然環境を生かしたスポーツツーリズムのさらなる活性化」ですけれども、各地域地域には、非常にツーリズムに関する資源というものもたくさんございますが、なかなかそういったものをとりまとめてまだまだ見える化、商品化することが不十分な状況でありますので、いろいろな関係者の協力を得て、そういった資源の掘り起こし、磨き上げを進めてまいります。括弧の2番の「自然環境を生かしたスポーツ大会の開催支援」につきましては、現状おこなっております制度でございますけれども、こうした自然環境を生かしたスポーツ大会というものの活性化にも取り組んでまいります。

続いて、54ページをお開きください。ポンチ絵の最後になりますが、オリンピック・パラリンピック等を通じたスポーツの振興でございます。これは、拡充や新規ということではありませんが、現状の取り組みの下に記載しております事前合宿について、チェコとシンガポールの資料に記載しています競技を受け入れることとなっておりまして、その受入に向けた準備を現在進めているところです。特にコロナ対策が現状厳しい状況になっておりますので、組織委員会と連携して、または市町村と連携して取り組んでいるところです。聖火リレーにつきましても、ご存じのとおり

り4月19日、20日の2日間に本県で開催されることになっておりまして、その準備も現在進めております。

ポンチ絵による変更ポイント、拡充ポイントについては以上でございますが、少し資料戻っていただきまして、20ページからは具体的な施策ということで文章化しております。先ほどポンチ絵で示したものなどを含めて、具体的な取り組みを記載しておりますが、赤字で記載した部分が、特に内容を変更した部分でございます。

23ページをお開きください。上段に記載をしています「県教育委員会は」という記載の部分とその下、「子どもたちが切れ目なくスポーツに親しむことができる環境づくりなどの取り組みを支援し、」などの部分につきましては、先ほどポンチ絵でも説明しました子どものスポーツ環境づくりに関連する記述でございます。

28ページの一番下の段には、リモートでスポーツ教室や研修等が実施できる環境の整備ということでリモートの活用に関連して記載しています。リモートの関連につきましては、33ページ「スポーツ医科学の効果的な活用」の項目の中にも、リモートによる活用ということに記載しております。併せて34ページには再掲になりますけれども、同様にリモートに関連することを記載しています。

続きまして、36ページ、37ページをご覧ください。ここはスポーツツーリズムに関連するところでございますが、先ほど、ポンチ絵で説明したとおり、特にアマチュアスポーツの誘致につきましては、追加しておりますので変更している記述が多数ございます。あと、自然環境を生かしたスポーツツーリズムの推進につきましても、強化するポイントとして記載しています。

最後、38ページの「オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの振興」でございます。ここでは、感染症対策をしっかりと講じながら進めていくということを記述しております。

具体的な取り組みについては、以上です。56ページからは、事業実施計画、いわゆる線表ですが、網掛けした部分が追加、変更した部分です。ここは長くなりますので説明は省略させていただきます。

99ページの体系図、その次の100ページの指標一覧などは変更ございません。最後103ページの計画の進捗管理でございますけれども、これまでと同様に高知県スポーツ振興県民会議と高知県スポーツ振興推進本部の両会が両輪となって進捗管理を進めていくということに変わりはありません。今年度、県民会議は3回、専門部会は2回開催させていただきました。また、推進本部会議も3回開催しましたけれども、来年度は、現在の予定では、もう少し会議の効率化を図りまして、進捗管理及びバージョン5に向けてのご検討をいただきたいと今のところ考えております。

長くなりましたが、計画のバージョン4（案）の説明とさせていただきます。よろしく申し上げます。

6 審議

(田村副会長)

ありがとうございました。只今説明がありました「第2期高知県スポーツ推進計画バージョン4(案)」について、ご意見やご質問などありましたらお願いします。

(島崎委員)

23ページの上から2番目の学校と総合型スポーツクラブの連携というところについて、他の市町村がやっているかもしれませんが、高知市のことが頭にあるので、スポーツ推進委員は分かっているだろうかという懸念があります。推進委員の仕事内容で私が行っているのは学校の授業等の支援ですが、このことは高知市のそれぞれの小学校でも推進委員の方が学校と連携をして、子どもたちのためにスポーツを広げていくことをこれからも行っていかなければいけないと思っています。高知市の会があればこのことを説明して、少しでもスポーツを広げていくようにしたいと思っています。

(田村副会長)

ここには教育委員会は出席していませんよね。教育委員会にそういったご意見があったということ伝えるようにしたいと思います。その他いかがでしょうか。

(田井委員)

子ども達が切れ目なくスポーツができる環境づくりについて、総合型スポーツクラブは学校との連携が必要になってきています。特に部活動の問題では、中学校体育連盟との関係があり、我々が学校に提案しても、教員の人数が少ないなどの理由から、部活動にしにくい面を非常に感じますので、人的な部分の見直しを望みます。

今回の計画では、リモートの追加を行っていると感じました。我々の施設にもリモートのセットが入っており、先日、障害者施設と進めた事例でも好評だったとの声をいただきましたので、今後も協議を重ねて進めていこうという話になっています。障害者施設などは、コロナ禍ではリモートでの取り組みが非常に良いと感じました。

(三谷スポーツ課長)

ありがとうございます。学校との連携でございますが、子どもたちのスポーツ環境づくりについては、地域ごとに課題や実情が様々でございますので、当然運動部活動との関連や運動部活動以外でも既存のスポーツクラブのいろいろな課題もございます。そういった地域の実情に応じて、しっかり教育委員会とも連携して、慎重に進めていかなければならないと思いますので、そういったことに留意して進めていきたいと思っています。

それともう一つ、リモートに関してですが、リモートの機器を設置していただいている施設単体でスポーツ教室を開催することや配信することについては、それほど課題は無いのかなと捉えています。より効果的に活用するために、施設間で連携した教室の運用となりますと、一定の

共通認識を持ったルールづくりなども必要になってくると思いますので、そういったものを年度当初から情報交換をさせていただき、より効果的に活用できるように進めさせていただこうと考えています。

(田村副会長)

そういったことでよろしいでしょうか。その他ないでしょうか。

(竹島委員)

今回の計画については、リモートの取り組みの記述が増えているという印象です。今後はリモートでの取り組みが増えてくると思いますが、ウィズコロナの視点だけでなく、これからの考えた場合、ワクチン接種が進むという状況もあります。記載についてですが、研修会はリモートでも良いと思いますが、SSC（高知県スポーツ科学センター）などは直接対応する必要があると思いますので、スタッフが必要であれば学校などにも伺うという文言を計画に追加する必要があると感じます。

(三谷スポーツ課長)

竹島委員のおっしゃるとおり、リモートだけでは当然足りない部分もありますので、リモートを上手に活用していきたいということを考えています。当然スポーツ活動については、対面で行うもの、一同に会することなどがベースになってきます。コロナの影響でリモートの活用が非常に効果的というところもございますので、そういった両面をうまく組み合わせる展開をしていきたいと考えております。委員ご指摘の表現につきましては、こちらで検討させていただきたいと思っております。

(青木委員)

高知県のスポーツ施設全体の全体図と言いますか、どこにどういった施設があるのか。そこにはどのような問題点があり、どのような整備をしなければならないのか。つまり、高知県スポーツ全体を進めるにあたっての課題を抽出しながら、どうしていくかということが、大変重要では無いただろうか。つまり、バックボーンが重要で、それと同時にゼロベースで考えて、この点が足りないということや、全くないもの考えて、方向性を決めていくようなことがあってもいいのではないかと。そのように思います。特に、私個人としては、県民体育館と高知市の施設があるあの一体を今のままの状態でもいいのか、どうなのかという問題。つまり、県と市と横断的にゼロベースで考えるということもあってもいいのではないだろうか。今のままでは県民体育館も老朽化していき、今後どうなるのかという問題が出てくると思いますので、もう少し総合的に考える時期ではないだろうか。そのように思います。

(三谷スポーツ課長)

スポーツ施設につきましては、委員のおっしゃるとおり、非常に競技団体などからも要望が多いものになっています。活動によっては施設が不足しているという状況が見られますので、庁内

でも一昨年から施設に関するワーキンググループを作りまして一定議論を進めてまいりましたが、コロナの影響もあり、今年度は施設整備に関する協議を行えておりません。来年度は、各施設の課題や競技ごとの課題を含めまして、施設の状況や課題を再度整理をして、整備が必要なものについて、また、協議をしていきたいと考えております。

(田村副会長)

施設整備は、私も執行管理をしていた立場でいうと、資金の目途が立たない状況では計画を立てにくいという側面もあろうかと思いますが、検討していただきたいと思います。

(猪野委員)

施設のことと言えば県民体育館は築48年です。今ある施設を有効に活用していく、新しいこのバージョン4に対応するにはどのようにやっていくかを県民会議の場でも発言をさせていただいていますが、リモートはやはり令和3年度の研究課題だと思っています。どうやって県立施設を持っている指定管理者として、これを有効活用していくか、宝の持ち腐れにならないようやっていくのかということで、職員を専任ではないですが、配置してやっていこうと思っています。ただ、SSCにはあるが春野の運動公園には無い。コロナの中で春野が7割ぐらいの利用率、県民体育館で6割、武道館も6割、弓道場が9割ぐらいの利用率で、SSCはきめ細やかな対応を行わなければならないので利用率は下がったのですが、やはりリモートは最大の課題だと思っています。

スポーツツーリズムの方でアマチュア合宿をやっていただくことは良いのですが、その時期の中央部の施設は満杯になっていますよね。そのことについてどうやって解消するのか。県民の方々が毎日コロナの中でもスポーツを楽しんでされている姿を見ていたら、そこをどうクリアしていくのかなということは、悩みどころではないかと思います。55ページの「スポーツを通じて健やかで心豊かに支え合いながらいきいきと暮らすことのできる社会」が目指す姿であるならば、県民の方が喜びながらスポーツ教室に参加していただくためには、各施設を利用しているところで見ていると、私どもが管理しているところはいいのですが、郡部の方はまだまだというところがあると思いますので、今後のバージョン5、また、第3期のスポーツ推進計画に向けては、どのような動きをしていくのかすごく気になりながら、バージョン4を効果のあるものにしていただきたいという思いを持っています。

(三谷スポーツ課長)

スポーツツーリズムに関する施設の利用に関しましては、例えば春野総合運動公園などに利用が集中することがございますので、県外から来ていただく様々な団体、利用者の方と県内での日常的な活動のバランスをしっかりとりながら、スポーツ課と観光コンベンション協会、施設管理者と情報共有をし、うまく受入ができればと思っています。当然、県立の施設だけではなく、場合によっては地域のスポーツ施設に受け入れていただくということも考えていかなければならないということもありますので、連携をしっかりとっていききたいと考えております。

(竹島委員)

53 ページの「本県の特徴を生かしたスポーツツーリズムの活性化」というところの今後の取り組み内容で、強豪校やトップチームとの実践練習に繋げる合宿誘致について記述がありますが、私の若い頃は、全国的なレベルのチームや学校が来たりする時に、県民体育館や各高校で練習しているのを見るとすごく勉強になりました。高知新聞などの記事を見るとトップクラスの方がいらしていますよね。そのPR方法が少し足りないとか、参加人数などを見ると、せっかく中央から来ている機会なのにもったいないなという意識がすごくあって、こういったところで、各競技団体と連絡を取り合いながら、試合と重ならない日程や参加しやすい場所などを考えるとかできれば、PR方法で参加人数は増えると思いますし、やはり、中央から来る著名な方々のプレーやコメントを聞くことで非常に勉強になると思いますので、このことについては是非活性化していただきたいです。

(三谷スポーツ課長)

強豪校やトップチームの合宿誘致につきましては、特に競技団体との連携が重要になってきますので、現在も観光コンベンション協会と連携して競技団体のキーマンにご協力いただいて誘致の取り組みなどを行っています。来ていただくことが決まったあとのPRについては、ご指摘のように今までPRが弱かったと思いますので、例えば、先ほどのスポーツ NAVI でありますとか、スポーツ課のその他の SNS を活用した広報なども考えていきたいと思っています。

(田井委員)

リモートの活用について、私はリモートをこういう風に使ったらいいなということを考えたりするんですけども、使い方がなかなか上手ではなく、使いこなせていないところがあります。昨年秋にオンラインでマラソン大会を開催しましたが、その時に全国からいろいろな方がエントリーしていただいて、それを NHK が取り上げてくれ、高知放送や地方放送の他にも、全国放送で取材をしていただいたんですけども、もし、これまでと違うマラソン大会ができるとした時に、できたらオンラインと現場の同時進行でやっていきたいなと考えています。そうした場合に、その CM が同時にできるというシステムをリモートでできるばいいなと思っているところです。今回、なぜ NHK さんが取り上げてくれたかという、私自身は宣伝を全然考えていなかったのですが、NHK さんからの提案で土佐市をどれだけ宣伝できるのですかと聞かれた時に、ふるさと納税的な考えしかなかったものを、提案をもらったことでいろいろな人と取り組みを少し加えながらいろいろやってみたんです。そういう中で皆さんからの反響があったということもあって、できたらマラソン大会自体で、高知県も例えば、高知龍馬マラソンなども他のいろいろなところの CM が入るようなリモートや SNS を使った配信もできていったらいいと思います。その中で、そのことができる方がなかなか少ないので、研修会的なものをもっとやってもらえたら、皆さんもリモートなどが難しいとは思わずに壁が無くなると思います。是非リモートに関する研修会を各地でたくさん企画していただけたらいいなと思います。

(三谷スポーツ課長)

リモートにつきましては、まだ、運用し始めたばかりということもあって、様々な課題が出てくると思いますので、先ほども申しましたとおり、スポーツ課も含め、配置をさせていただいた施設の関係者との情報共有をしっかりとさせていただくことが大事かなと思います。先ほどお話がありました、より効果的に活用する専門的な研修につきましては、予算の関係もありますのでどこまでできるかわかりませんが、検討させていただきたいと思います。

(田村副会長)

田井委員さんのお話は身に染みる思いがありまして、研修はもちろんですが、お助けマンのような、困った時にいろいろと手をすけてくれる、そういった方の派遣なんかを考えただけならどうかなという気もします。これは参考までにとということでもよろしいです。

(猪野委員)

田井委員さんにお聞きしますが、試しにリモートを使われていたということですが、総合型地域スポーツクラブとどういった場所を結んでやられたのですか。

(田井委員)

我々の地域に障害者施設がありまして、毎年体操教室をおこなっていましたが、今回、コロナ禍ということで外部との交流ができない現状がありました。障害者施設側の Wifi 設備が整ったこともありまして、我々の先生が配信し、施設側がプロジェクターに写すという形でリモートを行いました。障害者施設等はクラスターが出ると厳しい状況になるということで、外部との接触がシャットダウンになっています。そういったところはリモートによる取り組みが大変有効と感じました。

(猪野委員)

46 ページの活用のイメージ図で見ると、サテライトのようなところと拠点とを結んだということでしょうか。

(田井委員)

障害者施設などがサテライト的な部分かなと思います。また、例えばですけれども、指導者の方が遠方であったら、謝金や旅費が高額になるところを、オンラインで行えば、旅費分の支給が無くなって費用を下げることはできないかと思ったり、そういった意味では、総合型から複数のサテライトに配信されたら、一回あたりの謝金は代わらないので、非常にいいかなと感じます。今、もう少しひねったことができないか模索中のところです。

(猪野委員)

県内にスポーツインストラクターの方はたくさんいらっしゃって、去年は、コロナの影響で私もでもスポーツ教室を 40 ぐらい中止にしました。その間、スポーツ教室で生計を立てられてい

る方もいらっしゃるので、補償として中止になった分の6割をお支払いさせていただきました。今後、増えていけばスポーツインストラクターの活用も増えいきますので、少しでも収入につながるのではないかと考えています。県民会議の場でも私が発言したのは、集落活用センターなどの中山間地域の高齢者との健康教室、ストレッチ教室などの場がなんとかできていけば、スポーツ教室を自主事業として開催する時に少しでもインストラクターの活動できる場が増えるのではないかと思いついていますが、具体的にどう進めていけばいいのか悩ましいところです。

(田井委員)

先生は家で配信をしていますが、利用者が体育館に20人ぐらい集合してしまうとコロナ対策として配信している意味がないと思いますので、そうした場合は、家に配信してもらえないいけないのかなと思います。なかなか体育館での使い方は難しいなと思っていますが、例えば、県外の総合型地域スポーツクラブの方に県内向けに配信してもらおうということを少し考えています。高知県には無いプログラムを県外の人に頼んで、そこから配信してもらい、それを高知県の人も体験できるようなことを検討していますが、そうすると県内の指導者の方に申し訳ないかもしれませんね。

(田村副会長)

私も先ほどの猪野委員の発言に関連するんですが、スポーツハブの取り組みについてはすごく期待をしています。今、私も定年退職者ですけれども、高知市内の有料のスポーツクラブに昼間に行くと定年退職者であろう利用者が非常に多いんですね。たぶんそういった方は、費用をかけることにも余裕がある方だと思われ、そういった事がスポーツクラブの利用につながっていると思いますが、それ以外のあまり余裕の無い方は、行きたくてもそういった機会が持てないということもあると思います。是非、そういった方は総合型地域スポーツクラブなどで、そういったニーズを満たしてもらいたいなと思います。計画にも高齢者のスポーツ機会の充実は記載していただいておりますけれども、そういった事情やニーズがあるということも心掛けていただきたいなと思います。

それと質問ですが、私も前職の関係で子どもの体力のことが気になるんですが、計画の4ページの図で、令和元年度の小学校と中学校での子どもの体力が前年比較からするとかなり落ちていきます。それまでは順調に上がってきているんですが、事情や向上策について教育委員会の所管になろうかと思いますが、もし、聞いていれば教えていただきたいです。

(三谷スポーツ課長)

大変申し訳ないですが、詳細を確認できていません。また教育委員会とも確認をして後日連絡をさせていただきます。

(葛目スポーツ振興監)

先ほど、課長の三谷の方からありましたように、データはありませんけれども、少し関係するところで、現場の先生方の授業改善はどんどん進んでいるということは確実に聞いております。

それぞれの子どもの発達段階に応じて接する教員の意識の変化にも表れているということです。

(島崎委員)

施設のことで2点分かっていたら教えてほしいですが、県民体育館については、青木委員さんの言われるように、耐震はしたんですよね。(課長他肯定)プールの方は高齢者の方が健康づくりということでたくさん来ていると思いますが。

あと、近くに住んでいるので気になるのが、県民体育館の横にある消防署は、中央消防署に変わりましたが、その後、どう活用されるのかということです。私が以前から考えているんですが、県外からの子どもたちが合宿などで県民体育館をよく使っています。消防署の施設の中にある大広間であったり、個室が様々あると思うんですが、あそこに宿泊できる施設でもできれば、すぐ体育館も近いので、体育館も特別に早く開けて練習ができたりできるのではないのでしょうか。そういったことについてはどのように考えているのか教えてもらいたいです。

それと、南中、高について、確かに津波が来たら怖いかもしれませんが、地域住民から聞いたところ前回の南海地震でも津波が来てないと聞いています。多少は浸かったかもしれませんが、何かスポーツのテーマパークのような、そういった施設として使ったらいいのではないかと考えています。そのことについて、前知事にそのような話を1回、2回したことがありますが、ある程度決まっているようなことだったと思います。そういう施設というものは壊すのではなくて耐震化などをして活用できるし、色々なことをすればもっと県外から人を呼べるのではないかなと思います。コロナの中でもそういうことで高知県の経費の軽減もできるのではないかなと思っています。

(葛目スポーツ振興監)

確かに話には上がってきているところで、県民体育館も委員からお話があったように、だいぶ老朽化しています。単年度単年度、例えば、トイレを直したり壁を直したりやっていますが、全体的な改修の話もありますし、市と連携して整備してはどうかといった話も出てきています。青木委員がおっしゃられたように、全体的なところで考えていかなければ行けません、一つは、2点目と関わりますけれども、浸水地域になっていますので慎重に考えなければならなくなっています。南中高につきまは、当然学校もありますので教育委員会との話になろうかと思っています。

(田村副会長)

まだ在校生もいる中で、南高校の活用については対外的に説明できるような状況になってないと思いますが、今後、検討していくということにはなってくると思います。

(竹島委員)

47ページの「さらなる競技力向上に向けた強化」の資料で、大変個人的な意見となって恐縮なんです、今回、15競技ということでバレーボールを選んでいただきまして、重点強化ということでこれだけ競技がたくさんあって、人力的なことが足りるのかということや、あとバレーボールに関しては、ジュニアにしても中学生にしても、男子の割合が非常に減っていますし、女子も

高校生は減って合同チームを組むことになっています。これは強化策ということですが、なぜ、バレーボールが追加されたのか、まだまだ各カテゴリーが頑張らないとなかなか少年から成年につながっていないと私は考えています。それであれば、一番左端にあるようにジュニアの強化をもう少し重点を置いてやってくれた方が、先のことを考えた場合にいいのではないかなと思います。

(三谷スポーツ課長)

全高知チームにつきましては、資料にも記載していますように、小学生から一般までの有望選手を強化選手に指定し、年間を通じて定期的に質の高い強化練習を行うという定義付けをしています。15競技の中には、少年男女、成年男女など4つの種別がありますが、競技種別によっては一部の種別で体制が不十分な状況があることも事実ではあります。ただ、競技団体には小学生から一般まで一貫して系統的に育成していくという意識のもと、そういう体制を整えて計画的に進めていくということがベースにありまして、なおかつ、それによって国体の入賞に近づけることが期待できるのではないかとということで、15競技を来年度から展開をしていただくことを考えています。これ以外の競技につきましても、全高知チームを立ち上げるものの可能性がある競技ももちろんあるかと思いますが、来年度はまずバレーボールを立ち上げさせていただいて、展開するというところでスポーツ協会とも話をしているところです。

(田村副会長)

バレーボールが15競技に入ることがおかしいということではなくて、他に力を入れるところがあるのではないかという話ですよ。

(竹島委員)

私もこの間会議があつて、バレーボール協会が全高知チームになることについて負担に感じているように伝わってきました。最近で言えば、バスケットボールなどはある程度成績を残しているではないですか。それで全高知チームに入ったということはわかるんですが、本当にバレーボールはジュニアにしても中学校や高校にしても、四国を突破できるというチームが無いので、その辺りを感じました。

(葛目スポーツ振興監)

私は、バレーボールしかないと思っています。スタッフを見てもかなりの方がいらっしゃるし、中央とのパイプもある。指導者と選手のマッチングがいけば強豪にも勝つかな。ものすごくプレッシャーもかかっているかと思いますが、それ以上に期待しているところがございます。

(竹島委員)

具体的に何年後を目指してというイメージはありますか。

(葛目スポーツ振興監)

それは15競技、それぞれ違ってきます。全高知チームは当初、ソフトボールとレスリングを指定させていただいて、残り8種目を追加して10種目で始めましたけれども、最初に指定したソフトボールとレスリングは、その時点で明らかにスタッフも充実しており強い、結果を残すであろうというところに乗っからせていただいた経緯があります。単年度で結果を残せるところもあれば、2年後3年度に結果を残すところもあろうかと思いますが、それを各競技団体が中長期の計画に落とし込んで取り組んでいますので、我々も各競技団体から出された中長期の計画に応じて、PDCAをしっかりと回していく。特にスポーツ協会はRPDCAを取り入れ、Rの部分のリサーチをしっかりとやっていくということをスポーツ協会の中の基本方針に掲げておりますので、我々もそれに基付けられた予算をつけていただいているところでございます。

(田村副会長)

その他ないでしょうか。そうしましたら私の方から構いませんでしょうか。

障害者スポーツについて、計画の資料にも高知県社会福祉協議会を位置づけてもらえたことは大変うれしく思うのですが、来年度、障害者スポーツコーディネーターの配置を県社協としても計画して取り組むことにしていますが、実は、コーディネーターの謝金の予算について話をしている中で、謝金がわずかだったんです。これではなんぼなんでもということで、想定しているコーディネーターの方に聞くとそれでも構わないということでお願いはできるようですが、それでは広がりがないということで話をして、わずかなものではありますけど一定額にはしました。そうすると予算的には圧迫されてしまう。今後取り組みを広げようということなら、なかなか難しいので、そこについては、県の方からも支援というか、広げていくことについて一定の謝金を確保したうえで、一定の数を増やしていくことについてはご理解をいただきたいなと思います。

(三谷スポーツ課長)

現在、来年度からの取り組みについて障害者スポーツセンターの職員の方と、特にコーディネーターの役割について、目指す姿も含めまして、議論を継続させていただいているところでございます。高知県の場合、横に広いですので、県社協さんや障害者スポーツセンターだけで全県下を見ていくということは難しいと思います。地域のコーディネーターというところを計画されている状況ですので、そういった方々がどういった役割で、どのように地域の障害者のスポーツ機会の充実に向けて取り組んでいかれるのかということの共通認識を持つために、今お話をさせていただいている状況ですので、その取り組みが前に進む中でさらに必要なものが出てきましたら、また検討させていただきたいと思います。

(田村副会長)

当初は年間3万円位でした。それではさすがに厳しいということで、私どもの中で話をして月せいぜい2、3万円程度ですけれども、せめてこれぐらいはという話をしたんです。それでも数が増えていくなかなか私どものような組織では負担になってくるので、予算措置ということは改めてご検討をお願いしたいです。

(田井委員)

スポーツハブの取り組みの中で、障害者の事業がありますけれども、なかなかいい成果に結びついていないような気がします。障害者スポーツセンターとも近いですので、是非連携させていただければと思います。

(田村副会長)

体制の問題もありまして最近外になかなか出られていませんでしたが、来年度はもう少し体制も強化しまして、外にも出て行けるようにと話をしていますので、その時はよろしくお願ひします。

もう1点。オリパラの話ですが、54ページのホストタウンの交流で、チェコやシンガポールが来ていただくようになっていますが、私も少し関係したので気になるんですが、他のところでコロナの関係があつてやめてしまうということであつたり、あるいは、地元との交流はそもそもできないといった話も聞くんですけども、高知県の場合はどんな感じですか。

(三谷スポーツ課長)

事前合宿の受入の際の交流につきましては、組織委員会の方からも来ていただいた選手団と直接の交流はできないということになっています。ですので、例えば、リモートによる交流でありますとか、県内の高校生、中高生などが、応援できる何か取り組みなどを模索しているところとして、なんとか関わりができることができればと思っています。今までは来ていただいて色々と考えているところもありましたけれども、コロナの影響でかなり制限が出てきましたので、今後、残り期間が少ないですが、検討していくようにしております。

(葛目スポーツ振興監)

加えまして、今回、交流は難しいですけども、ホストタウンとの交流の目的には、大会後の交流というものがありますので、何らかの繋ぎをいれながら、将来的には観光的な交流であつたり、競技力向上も含めてやろうと考えています。例えば、高校生がチェコとかシンガポールを応援するためのビデオメッセージを送るでありますとか、横断幕を送るでありますとか、直接的ではありませんけれども、そういった形をどういう形で繋がれているかを、本番が近づいてまいりましたが、さらに詰めているところです。

(田村副会長)

せっかく事前合宿の誘致を一生懸命してきて、何のためにとということもあろうかと思ひますので、是非そのことはご検討いただきたいと思ひます。

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、意見も出尽くしたようですので、今回の諮問の案件、第2期高知県スポーツ推進計画バージョン4の案につきましては、異議なしということでもよろしいでしょうか。

ありがとうございました。それでは、当審議会への諮問の案件につきましては、異議なしとの

結論で答申することに決定しました。これから、県に答申することとします。

事務局は答申の準備をお願いします。

7 答申

(田村副会長)

答申書を読み上げ、岡村高知県文化生活スポーツ部長と答申書を手交

8 閉会

(田村副会長)

予定されている議題はこれで終了しましたので、その他としまして委員の皆さまから何かご意見等がありましたらお願いしたいと思います。何かございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。特に無いようですので、以上で、令和2年度高知県スポーツ推進審議会を閉会します。ご協力ありがとうございました。これより、事務局へお任せします。

(事務局)

田村副会長、ありがとうございました。

それでは、閉会にあたりまして、岡村部長より一言ごあいさつを申し上げます。

(岡村高知県文化生活スポーツ部長)

皆さま、熱心にご審議いただきまして誠にありがとうございました。また、ただいま答申をいただきました。ありがとうございました。今後も、この第2期高知県スポーツ推進計画バージョン4の制定になりましたら、これに基づきましてしっかりと取り組みを進めてまいりたいと考えております。ご審議の過程でいただきましたご意見、ご助言につきましては、しっかり踏まえまして検討させていただきたいと思っております。委員の皆さまにおかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしお願い申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

(事務局)

以上をもちまして、令和2年度高知県スポーツ推進審議会を終了いたします。

皆様、長時間に渡りご議論をいただき、ありがとうございました。

11時24分終了